



『大和本草』の桜苔

仲田 崇志

仲田 (2024) では、『和漢三才図会』[正徳 2 (1712) 序] に示された^{さくらのり}桜苔が現物を踏まえていない可能性を指摘した。では江戸時代の他の文献はどうだろうか。今回は貝原益軒による『大和本草』*1 を紹介したい。

『大和本草』は本文 16 巻が宝永 6 (1709) 年、附録 2 巻・諸品図が正徳 5 (1715) 年に刊行された (国文学研究資料館 1990)。桜苔は「壹岐島の海岸に産する。色は紅白で桜の花に似る。各片が互いに重なる。酢味噌に浸して食べ、脆く、さっぱりして味もよい」(原文は図右; 附録巻 1 第 4 丁表) とされ、ほぼ分岐しない葉状に描かれた (図左上; 諸品図第 20 丁表)。種の特定は難しそうだが、紅藻の一種ではありそうだ。

益軒が壹岐島を訪ねたことはないらしい (西日本人物誌編集委員会 1993; 年表など)。しかし『大和本草』の巻 1 では「妄ニ聞見ヲ信スルト (中略) 必誤アリ」(第 29 丁表) と述べており、また図は一部の種にしか示されていないので、図は目撃者など信頼できる情報源に基づいたと推測される*2。例えばカセブカ (シュモクザメ *Sphyrna* sp.) などは図が不正確で直接観察したとは思えないが、全くのでもたためでもない。益軒は福岡藩士だったので、壹岐出身者に桜苔の絵を描いてもらったのかもしれない。

*1 架蔵本 (刊記欠; 宝暦 11 年版か) および白井 (1980)、矢野ら (1980) を参照。

*2 『和漢三才図会』と同じく『大和本草』も河童^{カハタラウ}を載せているが (巻 16 第 20 丁裏)、解説のみで図はない。

引用文献

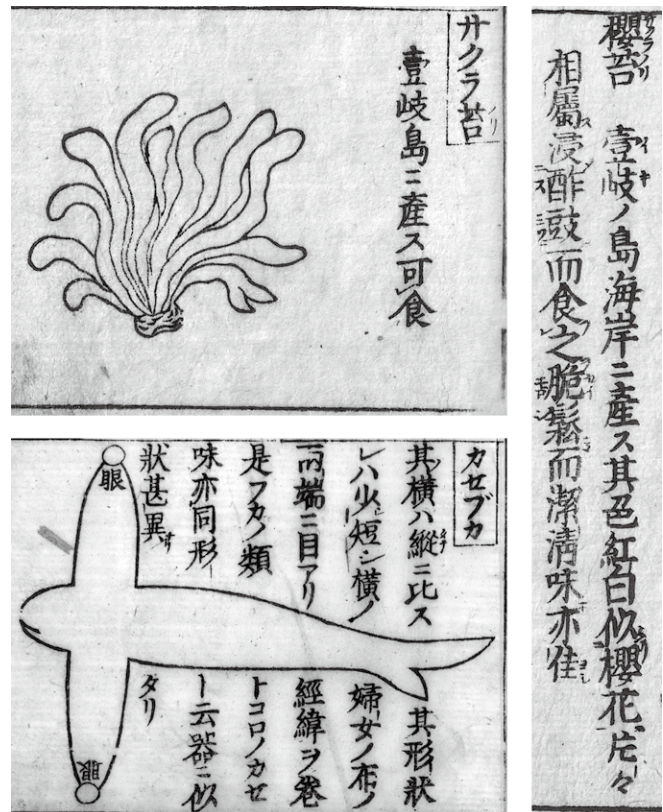
国文学研究資料館 (編) 1990. 古典籍総合目録—国書総目録続編, 2. 岩波, 東京.

仲田崇志 2024. 『和漢三才図会』の桜苔. 藻類 72: 122.

西日本人物誌編集委員会 1993. 貝原益軒. 西日本新聞社, 福岡.

白井光太郎 (校註) 1980. 大和本草 第 1 冊 (復刻版). 有明書房, 東京.

矢野宗幹 (校註者代表) 1980. 大和本草 第 2 冊 (復刻版). 有明書房, 東京.



『大和本草』(新校正)の抜粋 (架蔵本; 宝暦 11 版か)。桜苔 (右, 解説文; 附録巻 1 第 4 丁表。左上, 図; 諸品図第 20 丁表)。カセブカ (左下; 諸品図第 72 丁表)。